



「診療所は歩いていける？何時からだっけ？」といった入居者の質問にも的確に答える。運営するNPOの理事長、繁沢正彦さん(左)は「同世代ならではの気配りもある。若いスタッフとともに、なくてはなら

## ティア増加 派遣会社も

ない存在」と評する。

一部の自治体が導入している有償の「介護支援ボランティア制度」も、元氣な高齢者に活躍の場を提供している。介護事業所などで、利用者の話し相手や洗濯物の整理、シーツ交換など軽作業をした高齢者に換金可能なポイントを付与する。「いきいきポイント」(横浜市)「シルバーポイント事業」(さいたま市)「いきがい活動ポイント事

# 広がる動き 生きがい、元氣を維持

でも、五十八自治体がこの制度を取り入れた。最近一年で二十以上増加。「介護予防を進め、保険料を抑えたい自治体の思いは共通。その対策として注目されている」と同市の担当者は話す。

より積極的に高齢者に活躍の場を提供するベンチャー企業も現れた。

明治安田生命のOBらが起こした高齢者専門の人材派遣会社「かい援隊本部」(東京都品川区)は四月、首都圏の介護施設などに元氣な高齢者をスタッフとして派遣し始めた。約七十人が派遣の登録済み。六十代が中心で、施設の掃除、洗濯、配膳、ヘルパーの業務などを担う。

ボランティアと違い、賃金は最低賃金以上。代表取締役会長の新川政信さん(左)は「土日勤務の穴など、若い世代がカバーしきれない部分を高齢者が補う」と社のスタンスを説明。十一月には名古屋市内に支部を置き、東海地方に事業を拡大する計画だ。

新川さんは、介護の人手不足や、若い世代の介護離

# 東京新聞

8月16日

職などのニュースに触れるうちに「若者が高齢者を支える社会」から「高齢者も高齢者を支える社会」への転換が必要と痛感。高齢者を活用する事業モデルに行き着いた。「高齢者の84%は、要介お手伝いしたい」と話す。護や要支援の認定を受けていない元氣な人たち。人生経験と仕事を一段落してきた時間を、若い人のために役立てたいと考えている人は大勢いる。やる気と元氣が、社会に生きるよつ、